

歴史情緒を観光に生かす

問 街路市の出店基準の変更と、日曜市周辺の飲食店の充実について聞く。

答 これまで出店者を県内の生産農家または漁業者のみとしていたが、手作り食品や手作り工芸品等の製造者も選考の上で出店で

問 街路市の出店基準の変更と、日曜市周辺の飲食店の充実について聞く。

答 このうち手作り食品は、自家製農産物または街路市で調達した食材を使った加工食品も対象

構想」に沿ってさまざま見直しが実施されています。また、29年は坂本龍馬没後150年、大政奉還から150年、翌30年は明治維新から150年という節目の年に当たり、本県では幕末から明治をテーマに博覧会が開催される予定です。これらに取り組むことは、高知ならではの観光資源を磨き上げるとともに、「歴史・観光」という新たな魅力を創出するチャンスでもあります。

問 没後150年に向けた今後の歴史観光について聞く。

答 大政奉還150年について、京都市が中心となつて設立する記念プロジェクト連絡協議会に参画し、関係都市間で交流・連携事業等の協議を開始している。龍馬没後150年については、全国龍馬社中などの関連団体や関連都市と連携し、事

問 観光客にアピールする特色ある看板の設置について聞く。

答 高知ならではのデザインにするなど個性化を図ることや、QRコードなどを使って本市ホームページの観光情報を簡単に見らる機能を加えるなどの工夫を検討していく。

「高知市議会ニュース」として昭和24年1月に創刊されました。これは全国で6番目（行政広報・議会広報研究会調査）であり、また本市の行政広報（「高知市広報あかるいまち」の前身「市政ニュース」）の創刊よりも1カ月早い発行でした。

創刊号は、議会や委員会の開催状況の掲載に併せ、他都市が新設した税に関する情報やアメリカの都市と高知市の予算比較表など、GHQ（連合国軍総司令部）の施政下にあった当時の世相を反映した紙面構成でした。

高知市議会だよりは200号を迎えました

200号発刊に寄せて

当時は公共施設のほか、理・美容室など集客が多い店などに置かれ、閲覧されていたようです。以降、議会機関紙として議会の動きや地方自治に関する資料を提供するなど、市民を意識した「对外広報」として発行を続けてきました。

その後、昭和41年4月に紙面をリニューアルし、「高知市議会だより」第1号が創刊され、全戸配布となりました。それから50年が経過し、現在の発行部数は、約16万5000部となっています。

市議会だより第200号と聞いて、これまでの本市議会の歴史に感服いたします。多くの諸先輩方が「かんかくがくく」譯々議論された結果が現在の高知市の姿であり、我々の議会での議論が、次に第300号に寄稿される議員にとって振り返るに値する歴史となるよう益々精進してまいります。

広報委員長 浜口 卓也

高知市議会だよりの変遷（年表）

- 昭和24年1月 「高知市議会ニュース」創刊（旬報）
- 昭和27年4月 「高知市議会週報」創刊
- 昭和31年9月 「高知市議会ニュース」復刊
- 昭和41年4月 「高知市議会だより」に移行
- 平成3年2月 「高知市議会だより」100号発行
- 平成28年3月 「高知市議会だより」200号発行

審議日程（12月定期会）

7日	開会	市長提出議案提案理由説明
10日	代表質問	竹内千賀子（市民クラブ） 中澤はま子（新風クラブ）
11日	迫 哲郎（日本共産党） 山根 堂宏（公明党）	
14日	戸田 二郎（新こうち未来） 個人質問	
15日	岡崎 邦子（市民クラブ） 吉永 哲也（新風クラブ） 高木 長尾（市民クラブ） 近森 和明（公明党） 水口 細木（みどりの会） はた 正久（日本共産党） 浜口 佳寿子（日本共産党）	
16日	岡崎 豊（市民クラブ） 大久保 尊司（公明党） 伊藤 弘幸（公明党） 寺内 壽資（公明党） 浜口 晴雄（新風クラブ）	
17日	氏原 嗣志（新こうち未来） 伊藤 弘幸（公明党） 寺内 壽資（公明党） 浜口 卓也（新こうち未来）	
24日	人事議案提案理由説明 採決	（日本共産党）
25日	常任委員長報告 閉会	（日本共産党）
26日	常任委員会	
27日	討論	